

「何を学ぶか」「どのようにならるか」

「何ができるようになるか」を

身につける力を系統的に見とおせる

相手意識、目的意識、方法意識を明示

親しみやすく、やわらかいイラストで意識づけます。



書写をととして学んでいくこと (p.10)

新指導要領で求められる書写力を図示

目標をはっきりさせることで、つけた力が明確になります。

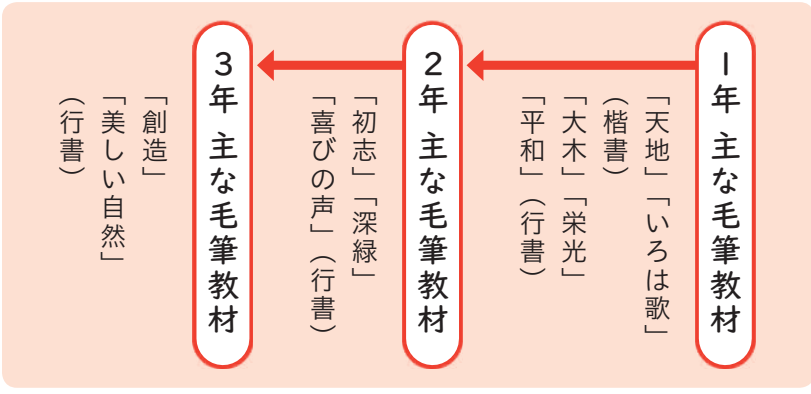


目的に合わせて書こう (p.4)

3年間の学びを俯瞰

学年カラーを活用した、ビジュアルかつシンプルなデザインで「何を学ぶか」を確認できます。

発達段階をふまえた教材配列



目次

『ふしぎ』金子みすゞ

小学校からの円滑な接続『ふしぎ』金子みすゞ 小学校で学習した慣れ親しんだ作家の詩を、導入で扱います。

学年	単元	ページ
第一学年	『ふしぎ』金子みすゞ	11
	学習内容を効果的にノートに書くこと	12
	一 楷書で書くこと	13
	1 筆使い ― 基本点画	14
	2 筆使いと字形 「天地」	16
第二学年	一 楷書と仮名の調和と書こう	22
	1 筆脈 「いろは歌」	24
	2 楷書に調和する仮名 「いろは歌」	26
	3 学習を生かして書く ― 行の中心	28
	4 学習を生かして書く ― 配列	30
第三学年	一 行書を深めよう	87
	1 点画の変化と連続 「創造」	88
	二 行書と仮名の調和と書こう	92
	1 行書と仮名の調和 「美しい自然」	90
	2 学習を生かして書く ― 配列	92
第三学年 (continued)	三 学習活動や日常生活に生かして書こう	137
	1 さまざまな書く場面	80
	二 学習を生かして書く	82
	三 学習を生かして書く	84
	四 学習を生かして書く	85
補完教材集	『友好の精神』 真理の探究	98
	『友好の精神』 真理の探究	137
	『友好の精神』 真理の探究	98
	『友好の精神』 真理の探究	137
	『友好の精神』 真理の探究	137

目次 (p.2・3)

「まなびリンク」には全教材分の毛筆動画を収録

教科書に掲載されているすべての毛筆動画について、書いている様子を真上から撮影した動画が視聴できます。

<https://www.kyoko-shuppan.co.jp/~ml-puhsheka.html>

収録教材数

- 1年…10教材
- 2年…8教材
- 3年…4教材
- 補充教材集…13教材

知識・技能を確実に習得する

— 小学校からの円滑な接続

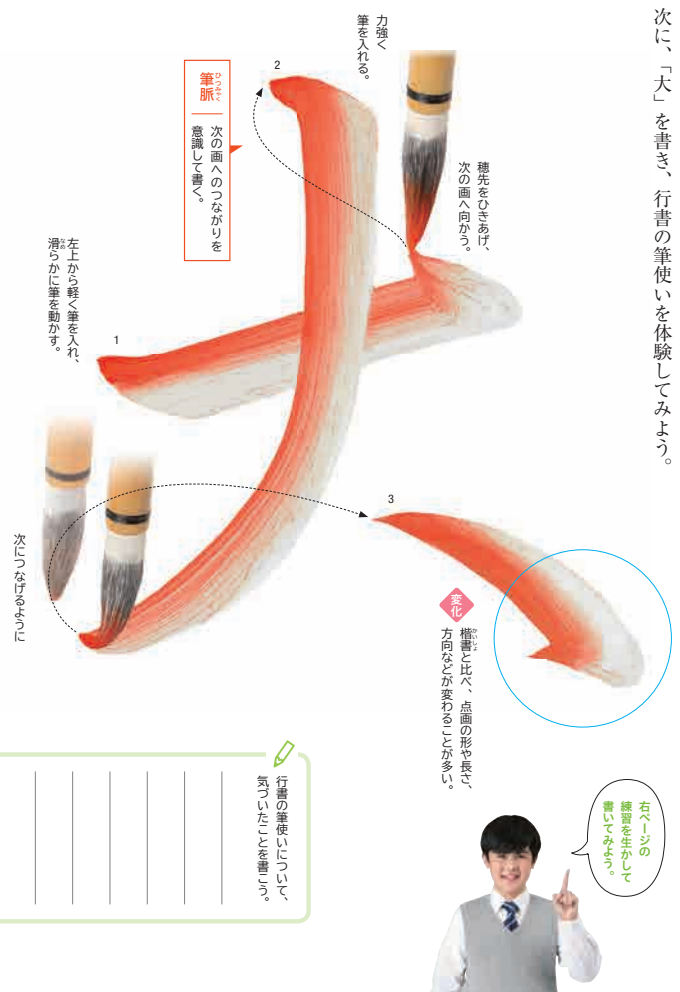
「適切に運筆する能力」⇨行書の基礎的な書き方」を段階的に、丁寧に

3 行書の筆使い「大」

はじめに、筆の動きを確かめよう。



次に、「大」を書き、行書の筆使いを体験してみよう。



行書の筆使い「大」(1年p.44・45)

学習指導要領での扱い

小学校段階において、新指導要領で求められている「適切に運筆する能力」について、中学校では明快な筆使いの図版と、行書の丁寧な導入で接続を図り、さらに高めていきます。

小学校 第1・2学年

点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。

※指導要領解説書には「水書用筆等」が例示される。

第3・4学年

毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

第5・6学年

毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

中学校

第1学年

漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

行書の基礎的な書き方

⇨行書ならではの筆使いの習得

作業療法※の観点から

よい姿勢をとるための要所となる「体幹」に着目し、背筋を伸ばすから腰を起すことを習慣化できるようにしました。

※作業療法は、障害と折り合いをつけながら、生き生きとした生活を送れるよう、仕事、遊びなど日常生活のなかでの活動(作業)をとおして、こころとからだを元気にするリハビリテーション。(一般社団法人日本作業療法士協会ウェブページ)

生徒自らがよい姿勢を確認できる観点を提示。



姿勢と用具の使い方 (p.6)



作業療法士 笹田哲先生のコメント

中学生は、発達段階として、身長、体重などの変化が大きくなる時期です。よくない姿勢で書くと、運筆の調整力・視力・呼吸の低下、体の歪みにつながり、心身に悪影響をもたらします。よい姿勢、疲れにくい持ち方にも目を向けて、書く力を伸ばしていくことが大切です。

プロフィール

神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション学科 教授、同学科長 日本発達系作業療法学会理事

「ワイドな紙面」

— 確かな文字感覚が身につく

● 半紙形を維持した紙面によって、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白のとり方などが、より実感できます。

三 行書で書いてみよう
4 点画の連続と変化 1 「大木」

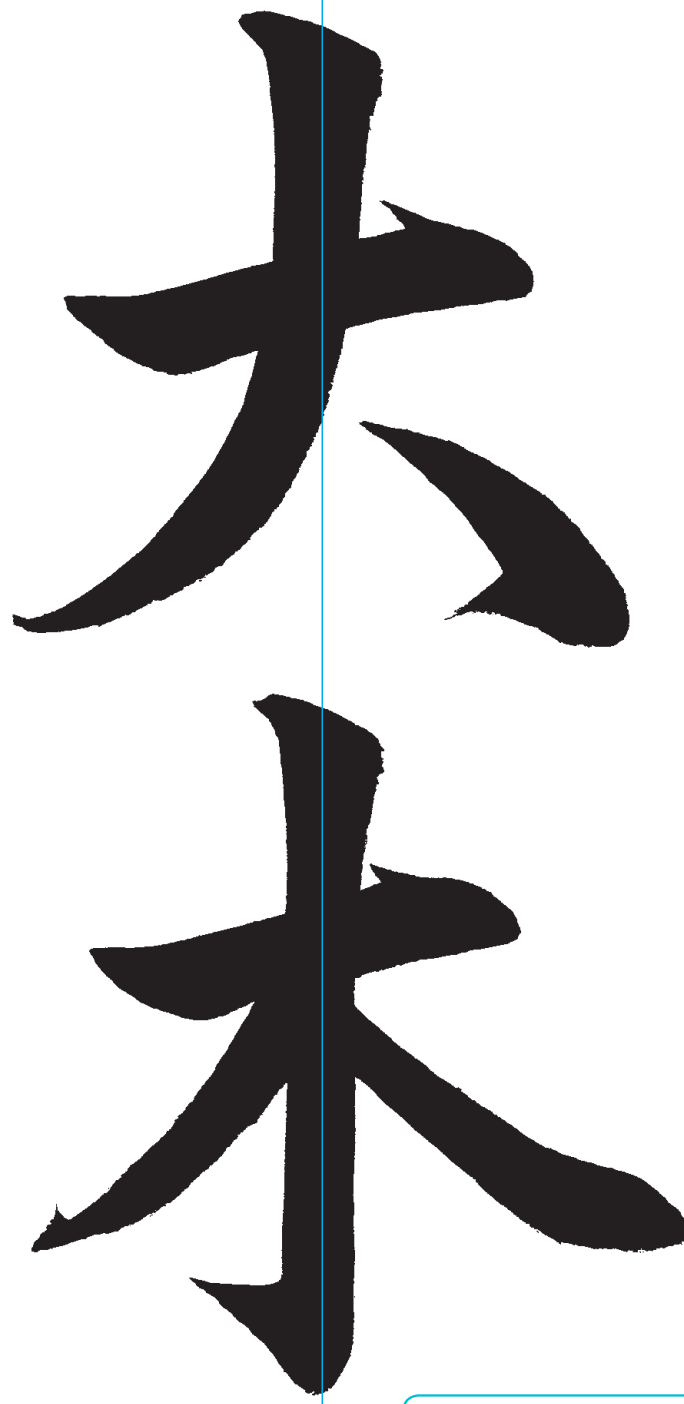
目標 点画の連続と形の変化を理解

教科書の大判化※によって、教材文字に、よりいっそう集中できる紙面になりました。

※大判化：「AB判」
(縦がB5判、横がA4判)になりました。

単元名と目標は半紙形の外側へ。

行書第1教材には中心線を入れて、わかりやすく。



中心点は全ての教材に入っている。

右ページで教材文字をじっくり観察する。
半紙形のイメージを大切にできます。

試し書きは左ページへ。

最初に楷書で字形を確認しよう。
行書で書いてみよう。

試し書き

大木

◆ 点画が連続し、筆脈が表れているのは、どの部分だろうか。
◆ 楷書に比べて、点画の形は、どう変化しているだろうか。

考えよう

学習内容を確認する書き込み欄。

「大」の三画めを

「大」の三画めを (させた結果、速く書くことができた。)

「木」の三画めを (させた結果、速く書くことができた。)

筆脈は、次の画へ向かう小さな「はね」の形で表れます。

筆脈がつながるよう書く。

右下の方向に引く。

軽く止める。

「大」の変化

「木」の変化

だんだんと筆圧を加え、止める。

軽く止め、次の画へ。

習得した知識を自ら書いて確かめることで、大切なポイントを確実に定着させます。

「大」の三画めを (させた結果、速く書くことができた。)

生かそう

変化 左払い・右払い

点画の形や長さが変わることが多い。

縦画の終筆が変化することがある。

大 人 天 不 求

変化 縦画

縦画の終筆が変化することがある。

大(大・大) 木(木・木)

行書には、さまざまな書き方がある。

川 本 弟 末 東 将

まとめ書きと応用

「大」のつく二字熟語を

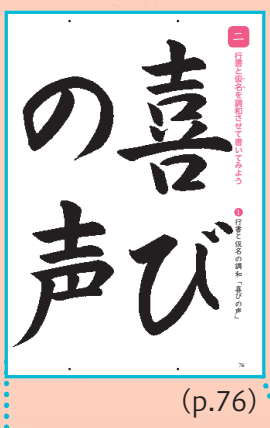
大木

「大」のつく二字熟語を

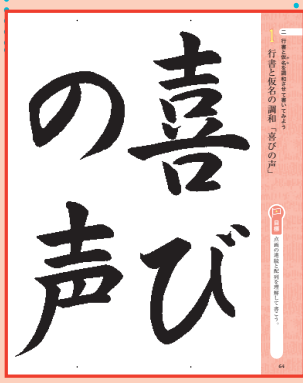
大木

振り返ろう

点画の連続を理解して



(p.76)



(p.64)

見開き完結型

左ページでポイントを確認する。
より詳しい解説により理解が深まります。

単元名が入るため幅が狭い。

半紙形が維持できる。

「学び方がわかる」

—主体的・対話的で深い学びへ向かう羅針盤として

● 毎時間の学習の進め方が確実に理解でき、基礎・基本の定着を図ることができます。

● 主教材となる1文字の学習から他字への応用、日常化までの流れをつかむことができ、「深い学び」につながります。

学習手順の明確化 主体的な学び

「学習の進め方」について、批評場面や学習用語の例示などの具体的な手だてを入れることで、より活用度が高まりました。

「学習の進め方」と、毛筆基本紙面の連動が明快で、毎時間の学習の進め方が身につきます。

- ① 目標
- ↓
- ② 考えよう
- ↓
- ③ 生かそう
- ↓
- ④ 振り返ろう
- ↓
- ⑤ 学習や日常生活に生かそう

学習の進め方

① 目標

学習の目標を確かめよう。
学習の方法を確認してみよう。



② 考えよう

試し書きと教科書の文字とを比べ、自分の課題を見つけよう。



批評することで課題発見する。



④

練習用紙を選択し、課題解決に取り組む。

◆ 課題を発見し、課題を解決していく学び方
自ら課題を発見する。
課題解決した練習用紙を提出して練習しよう。

⑤

学習や日常生活に生かそう

◆ 話し合い活動とおとした学び方
話し合いには書写の学習用語を使う
話し合いのポイントは、
◆ 話し合いのポイントを、
◆ 話し合いのポイントを、
◆ 話し合いのポイントを、
◆ 話し合いのポイントを、

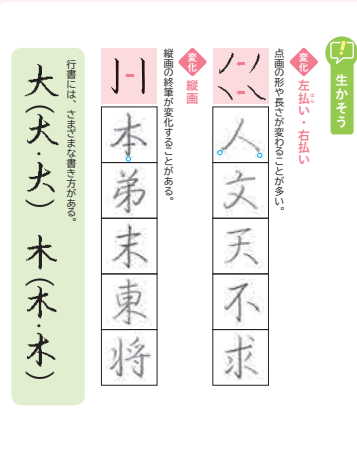


書写用語で伝え合う 対話的な学び

話し合い活動のポイントや学習用語を提示することで、話し合い活動を活性化させます。

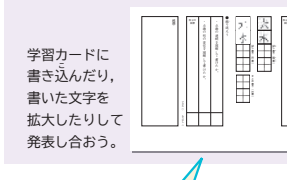
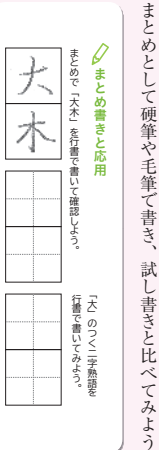
③ 生かそう

毛筆で学習したことを、硬筆で他の文字に生かして書く。



④ 振り返ろう

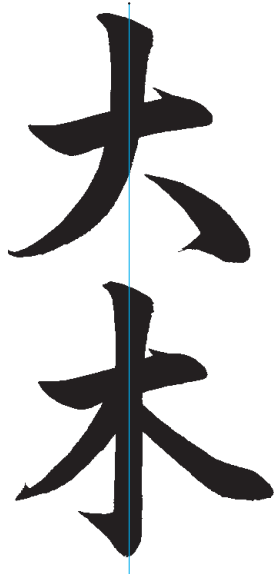
課題が解決できたかどうかを自己評価し、学習を振り返ろう。



学習カードを例示することで、主体的な学びを支援。



学習の進め方 (1年p.8・9)



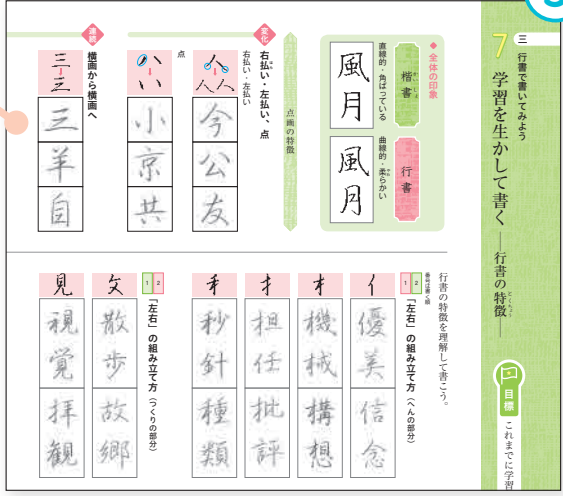
点画の連続と変化1「大木」(1年p.46・47)

②

③

④

⑤



学習を生かして書く一行書の特徴 (1年p.52)

他字への応用・転移 深い学び

「硬毛関連」

毛筆で学習した行書の書き方を、硬筆の他字に転移できる教材が豊富に例示されており、日常化を図ることができます。

学習活動や日常生活で、生きてはたらく書写力を身につける

わかりやすくまとめる力が学力向上につながる

各教科の書く活動と連動しています。国語をはじめとして、社会、理科、数学など、各教科バランスよく教材化することで、カリキュラム・マネジメントにも対応しています。

学習を生かして書く一配列 (1年p.31)

植物観察し、レポートにまとめる。

●横書きの書き方
 ●数字は算用数字を使うことが多い。ただし、「一つ」や「一度」などは漢数字で書く。
 ●読点は、コンマ(,)を使うことが多い。
 ●文字の位置は、右の二通りの書き方がある。

●行頭の位置の取り方
 行の下線をのりあてて書く方法。
 行の中心にそろえて書く方法。

●理科のレポート

書写では、より伝わりやすい書き方のコツを解説することで連携を図る。

学習内容を効果的にノートに書こう (1年p.13)

学習課題はわかりやすいようにけいなどで書く。

同じ内容の項目は、書き出しをそろえる。また、項目ごとに余白を取りながら書くことよ。

まとめは学習課題と対応させてわかりやすく同じ体裁にする。

●社会科のノート
 内容を整理してまとめることで、理解しやすく、覚えやすいノートになる。

関連箇所

- p. 4・5
- p. 12・13
- p. 30~37
- p. 78・79
- p. 82~85
- p. 94・95
- p. 98~107
- p. 110~112

【内容例】

目的に合わせた書き方、メモ(関連づけ、分類)、さまざまな書く場面、新聞、メッセージカード、案内文など

実社会で活用できる「書式の教室」

学習活動や日常生活での活用はもとより、義務教育の最終段階として、実社会で活用できる基本的な手紙の書き方、包み紙、小包伝票の書き方など豊富に掲載しており、生涯にわたって活用できます。

書式の教室 (p.100)

●手紙
 相手への配慮が書式に表れている例。

●包み紙
 社会に出てから求められる書式の例。

●エアメール
 国際交流の観点から、基本的な書き方を掲載。

●志願理由書
 正しく丁寧に整えて書くことで志望校への姿勢が伝わる書き方の例。

関連箇所

- p. 4・5
- p. 32・33
- p. 98~107

【内容例】

一筆箋、年賀状、往復はがき、小包伝票の書き方、入学願書 など

書式の教室 (p.107)

●志願理由書の書き方
 毎日、貴校の前を通ると、いつも、「こんにちは」という挨拶の音が聞かれます。礼儀正しい校風のある貴校で、心から、気持ちのよい学校生活が過ごせると思いますので、ぜひ入学を希望いたします。

●エアメール
 国際交流の観点から、基本的な書き方を掲載。

●志願理由書

正しく丁寧に整えて書くことで志望校への姿勢が伝わる書き方の例。

思考力をはたらかせて書く 国語の表現力を高める

国語の定番『竹取物語』。書写での連携は？

- 1 まず、なぞり書きをすることで、作品を書いて味わう。
 - 2 「考えよう」の観点を参考に、楷書と仮名の調和について話し合う。
 - 3 「生かそう」で、例示された以外の文章を書き、活用を図る。
- ↓ 書写では作品を書いて味わうことと、よりよく書く方法を学びます。

言語活動、文学作品などを豊富に掲載

国語の指導要領における学習活動との連携に配慮した教材構成です。国語と書写を連携させた指導計画をスムーズに立てたり、普段の授業で自然に連携を図ったりすることができます。

『竹取物語』の絵巻物

美しい図版で古典の世界へといざなう。



楷書と仮名を調和させて書く
学習を生かして書く 行の中心
目標 漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書く

『竹取物語』のノート例でも関連(p.12・13)

内容がわかりやすく、振り返りやすいノートのまとめ方について、『竹取物語』の教材をもとに例示しています。

関連箇所

p. ①・1, 12・13, 26~29, 36・37, 68・69, 72~77, 92・93, 110~112

【内容例】

夏目漱石の書、宮沢賢治の手帳、『平家物語』、『おくのほそ道』、原稿用紙の書き方 など

中心線 (新設)

書写のねらいである配列を意識して書くことができる。

話し合いの観点を提示

話し合いの観点によって、よりよく書く方法を考え、対話的な学びを促す。

中心点

学習を生かして書く一行の中心— (1年p.28・29)

課題解決のための情報整理の方法

課題設定、解決方法を計画、情報を比較、事柄を推論する活動において、表や図解で表す整理法を示す。

◆情報を比較する

◆事柄を推論する

項目	小説	秋葉	秋葉	秋葉	秋葉
登場人物	主人公	主人公	主人公	主人公	主人公
設定	現代	現代	現代	現代	現代
展開	主人公が...	主人公が...	主人公が...	主人公が...	主人公が...

◆ポイント

◆事柄を推論するとは、整理された情報から今までわからなかったことを見出すことです。

情報を整理して、活動につなげよう (p.111)

本の帯、ポップ、ポスター

読書活動と関連させて、お薦めの本を紹介する本の帯やポップ、ポスターの書き方を示す。

お薦めの本の帯やポップを作る

友達「お薦め」の一冊を紹介するために、効果的に本の帯やポップを書く。

表紙紙・背表紙・裏表紙の三面に書くため、キャッチコピーは複数ある方が便利。

本と離れたところに置かれる場合もあるので、書名と作者名も書く。

紙の形は縦長、横長など

引き狭く

学校生活に生かして書く (1年p.36)

SDGsへの取り組み



日本の文字文化の担い手として

学習活動や日常生活に生かして書こう (2年p.84)

タイトルは、大きさや色使いなどで目立たせる工夫をする。

一行に何文字入るかを考える。

書き出しの位置をそろえる。

楷書は、整然として読みやすい。行書は、柔らかい印象を受ける。

行書

楷書

美化委員会

- 環境保全として、「クリーン大作戦」のポスター例や、森林保護を題材とした図解の例を掲載し、次世代に生きる生徒の育成を支援します。

筆使い—基本点画— (1年p.14)

筆使い—基本点画—

基本点画の種類

外国にルーツをもつ子どもや特別支援教育のへ配慮

基本点画の名称とわかりやすい筆使いを掲載することによって、文字の基本的な書き方がいつでも確認できます。

すべての生徒にとっての学びやすさに配慮

- 色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法 (ユニバーサルデザインフォント) などの工夫により、すべての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

カラーユニバーサルデザイン

判読しやすい配色です。専門機関の認証を得ています。

(2年p.52)

ユニバーサルデザインフォント

読みやすさに配慮したUDフォントを使用しています。

(p.9)

筆圧など	字間	字形	行間	文字、行の中心	送り点	折れ曲がり	送り点	はね	右払い	左払い	横画	縦画
------	----	----	----	---------	-----	-------	-----	----	-----	-----	----	----

書写テストで確認

書写テストで確認 (p.109)

- 書写の知識・理解の定着を図るための問題を掲載しました。

漢字一覧表 (p.113 ~ 125)

- 小学校で学習した1,026字、中学校で学習する1,110字の「行書」に加えて、「楷書」を新たに掲載。
- 「漢字の部分による分類」に加えて、50音順の索引 (p.126 ~ 128) を新たに掲載し、検索機能がさらに高まりました。

漢字一覧表がさらに使いやすく

【小学校】

- 小学校で学習した漢字1,026字を掲載しています。
- 基本点画や朱墨の図版など、小・中学校で同様の図版を掲載しています。

『小学書写 六年』 (p.5)

『中学書写』 (1年p.14)

【高等学校】

- 行書の導入として、名筆「風信帖」を扱ったり、行書と仮名の調和の学習の発展として短冊や色紙を扱ったりしています。

小学校・高等学校との円滑な接続

夏目漱石 (江戸) 大正時代 (一八七〇—一九一六) 東京生まれの作家、代表作に『こころ』『坊っちゃん』などがある。

「則天去私」は、漱石が理想とした境地。

(2年p.57)

『3年p.97』

- 身のまわりで見られる書や、先人の書の味わい深さを実感できるコラム、地域のシンボルである城址写真のコラムなど、多角的な視点での文字資料を多数掲載しています。